

第1回

北九州市バイオマス有効活用検討会

平成27年12月11日

北九州市

なぜ北九州市がエネルギー政策を行うのか①



北九州市は、再エネ、高効率火力、一次エネなど、多種多様に取り組んでいることから、平成19年に経済産業省から次世代エネルギーパーク第1号認定を受けるなど、従来からエネルギー拠点の優位性があった

①再生可能エネルギー等

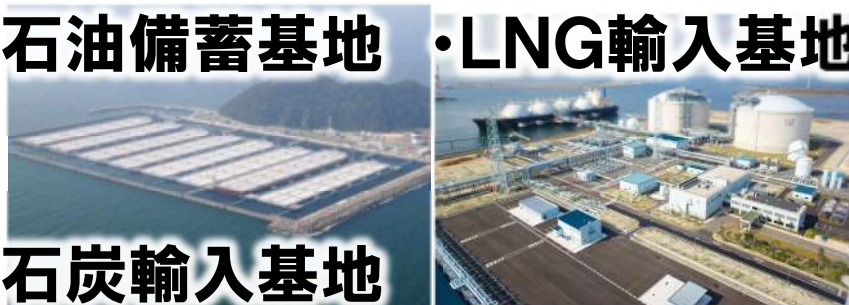
- ・洋上風力発電等
- ・メガソーラー



- ・スマート水素ステーション

③一次エネルギーの備蓄基地

- ・石油備蓄基地
- ・LNG輸入基地



- ・石炭輸入基地

②火力発電

- ・石炭利用
高効率発電技術(EAGLE)
- ・バイオマス石炭混焼火力発電
- ・高効率LNG火力発電



④産業とリンクしたエネルギー

- ・CDQ設備
- ・火力発電の
資源・エネルギー融通

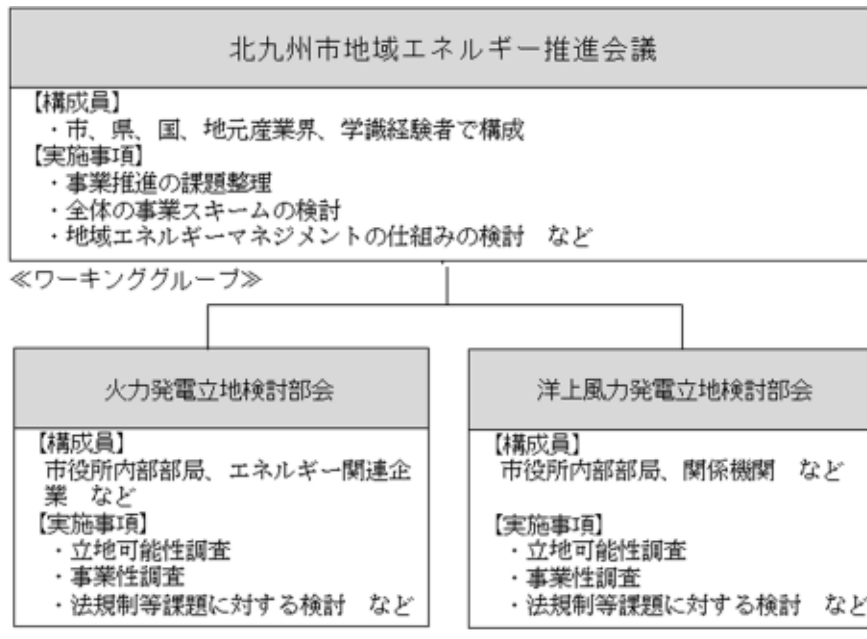


なぜ北九州市がエネルギー政策を行うのか②



加えて、東日本大震災を契機とした、電力需給のひっ迫を経験し、市民生活・産業活動を支える観点から、地域として一定の責任を果たすことが必要と考え、平成24年度から地域エネルギーの検討に着手した。

平成25年度に
地域エネルギー
推進会議を開催



低炭素・安定・安価なエネルギー供給
実現のため、

①響灘地区の優位性を活かし、民間の
洋上風力や
高効率火力
発電の集積



②スマートコミュニティの
ノウハウを活かし、
地域エネルギー会社
の設立



という2つの方向性が示された

北九州市地域エネルギー拠点化の進捗



＜響灘地区への発電所の集積＞

- ・浮体式洋上風力発電 1件(7,450kW)
 - ・陸上風力発電 1件(6,600kW)
 - ・高効率LNG火力発電 1件(最大160万kW)
 - ・高効率バイオマス・石炭混焼火力発電 2件(各11.2万kW)
- の合計5件が、現在までに、環境アセスメント手続きに着手

＜地域エネルギー会社の設立＞

- ・「株式会社北九州パワー」が地元企業等の参画を得て、平成27年12月1日に設立。
- ・28年4月からの営業開始を目指している



北九州市バイオマス有効活用検討会



- 北九州市は、市民生活・産業活動といった地域を支える観点から低炭素・安定・安価なエネルギーを供給することを目的に「地域エネルギー拠点化推進事業」に取り組み、洋上風力発電、バイオマス発電などの集積を進めている
 - 現在、響灘地区において、バイオマス石炭混焼火力発電所等立地に向けた準備が進められている
 - それら発電所等における地域内バイオマスの有効活用は、
 - ①地産地消推進による新たなバイオマス産業の成長
 - ②市内産業(林業・産廃業)の成長
 - ③バイオマスサプライチェーン構築によるCO2削減に資する重要なもの
- ⇒行政・バイオマス関連事業者が連携し、意見を出し合い、地域のバイオマス有効活用策を検討し、事業者間のマッチングを図るため、「北九州市バイオマス有効活用検討会」を開催

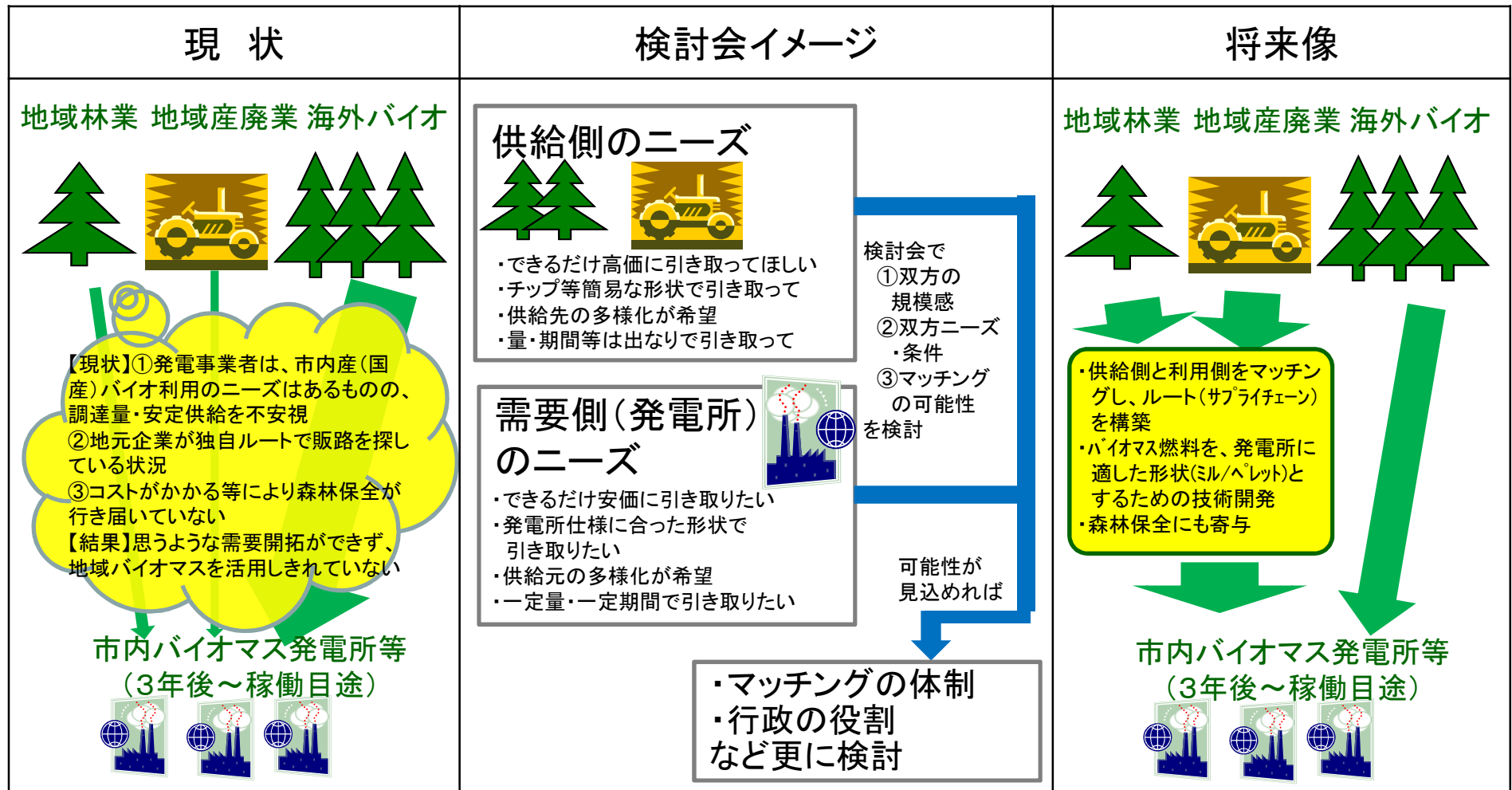
北九州市バイオマス有効活用検討会



● 検討会参加者

国	<ul style="list-style-type: none">・経済産業省 九州経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課・林野庁 九州森林管理局 福岡森林管理署
福岡県	<ul style="list-style-type: none">・農林水産部 林業振興課・八幡農林事務所 林業振興課
北九州市	<ul style="list-style-type: none">・産業経済局 農林水産部 農林課・港湾空港局 総務港営部 立地促進課・環境局 環境未来都市推進部 地域エネルギー推進課
市森林組合	<ul style="list-style-type: none">・北九州市森林組合
響灘地区 関連事業者	<ul style="list-style-type: none">・株式会社響灘火力発電所・オリックス株式会社・エネルギー資源開発株式会社・ホクザイ運輸株式会社

北九州市が考える現状と将来像



地域内バイオマス有効活用のメリット

- ①地産地消推進による新たなバイオマス産業の成長
- ②地域産業(林業・産廃業)の成長
- ③バイオマスサプライチェーン構築によるCO2削減

検討会の概要



検討会の進め方

- ・検討会＋検討委託の2本立てで進める
- ・バイオマス産業を根付かせることを大目標に置くが、3年後にバイオマス混焼発電所等が稼働予定のため、まずはそこへの供給マッチングを図っていくことを主眼

検討事項

- ・木質バイオマス等の有効活用に関すること
- ・木質バイオマス等供給者、利用者のニーズに関すること
- ・地域における木質バイオマス等の供給に関すること
- ・木質バイオマス等を利用するための条件等に関すること
- ・バイオマス関係者の連携強化に関すること

検討会のゴール

- ①地方創生の1つとして、バイオマス産業を根付かせる
- ②3年後に市内にバイオマス混焼発電所が稼働予定のため、地域のバイオマスを有効活用できるよう、リーディング事業として、検討会にてマッチングを図っていく

スケジュール

	27年度					28年度												
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
検討会 27年度に3回 28年度も継続予定		第1回 (12/11)	第2回 (1月)	第3回 (2月)		検討会の継続 												
	27年度のゴール ・供給側・需要側の規模感把握 ・双方のニーズ・条件の把握 ・マッチングの可能性の把握					28年度のゴール ・マッチング具体化への準備 ・エネビジョンへの反映												
検討委託 第1回検討会にて調査項目を明らかにし、発注予定	検討内容 ・供給側・利用側の シーズ・ニーズ等調査 					検討内容 ・シーズ・ニーズ調査を元に ビジネスモデル検討 												